

# 玉手山学園 広報

Tamateyama Gakuen Kouhou  
Vol.69  
2012.6  
Spring-Summer

巻頭 理事長あいさつ

学園は夢に近づくところ  
やってみよう!を大切に

Contents

- 巻頭 理事長あいさつ
- 学園創立70周年記念行事
- 学園トピックス
- ニューフェイス

## 建学の精神「感恩」

人はみな有形無形の数々の恩恵を享受し、今の自分がある。この偉大なはからいに目覚め、深い感動と感謝の念から発する豊かな心と情熱をもって、人の幸せを願い行動するとき、われわれは社会に貢献することができる。

～「ありがとう」に出会い気づき、感動・感謝の行動から、また新しい「ありがとう」が生まれ出されていく～

# 学園は夢に近づくところ やってみよう！を大切に



## 学園の新しい仲間(新入生、新任教職員)、 皆さま「ようこそ！」

今春の学園一番桜(ソメイヨシノ)は3月30日、満開の桜に迎えられての入学式となりました。新しく学園の“仲間”になられた学生・生徒・園児、教職員の皆さま、「玉手山学園にようこそ！」学園は夢に近づくところ、豊かな学園生活をともに送みましょう。

## 建学の精神「感恩」「ありがとう」を大切に

1942年(昭和17年)の玉手山高等女学校創設に始まる学園の建学の精神は「感恩」です。豊かな感性で“何の、どうして「ありがとう」なのか”に気づき胸を熱くし、そこから次の新しい「ありがとう」が生み出されます。この精神が、学園のすべての教育研究活動のベースになっています。難しい解釈文を覚える必要はなく、自分の言葉で自分流の「感恩」を持ち「ありがとう」を大切にする、そんな学園生活を送ってください。個性豊かで素晴らしい能力をもつ人を養成するのが私学、その柱が建学の精神です。皆さま、私学人として誇りを持ちましょう。

## 「圧倒的無力感(自分になんか何が…)」 から得たもの

今年3月、東日本大震災被災地から関西福祉科学大学(愛称Fukka)の学生と教員からなる派遣チーム(ソーシャルカーの“声”プロジェクト)が帰ってきました。学生たちは南三陸町や石巻市などの激甚被災地をゆっくりと歩き、無からの生活再建に取り組む方々や、その支援にあたる社会福祉士の方々から話を聞きました。学生たちは「圧倒的無力感(自分になんか、何ができるのか)」を痛いほど感じ、言葉を失いました。



上：桜満開の学園にて(理事長 江端源治)  
2012.4.12 撮影  
下：学園一番桜を学生とともに祝う  
2012.3.30 撮影

しかし一方で、自分でも何かできることがあるはず！「もっと学び、自分を高めたい」という“意志”が湧き起ってきました。学生たちが日に日に成長していくその姿に、教員も大きな喜びを感じ、学生たちを誇りに思いました。それが教員にとって最高の喜び・励みになりました。私もそんな学生たち、教員を誇りに思います。

## 「やってみよう！」の気持ちこそ

学生たちは自らの意思で被災地に向かい、豊かな感性で多くを学び、「自分に何ができるのか」に取り組む意欲を得たのです。帰着後、早速まとめの作業に入り、早くも4月6日に彼ら学生たちによる教職員対象の報告会がありました。教員のアドバイスを参考に、短期間のうちに荒削りではあるが見聞内容を集約整理し、8人の学生たちは教職員20数名の視線という大きな緊張感のなか、自分の言葉で熱く語ってくれました。彼らの姿から自分達を感じ学んだことを多くの人に伝えたいという意欲・情熱を感じました。報告のなかにはたくさんの気づき(原石)がありました。もっとうまく的確に心に響くように大切なことを発信したい、伝え方を磨き続けることにより、彼らは成長し原石は輝きを増してくるでしょう。「やってみよう！ I can do it, if I will. Where there's a will, there's a way.」の気概が、彼らの行動のエネルギーです。この姿勢が、手ごたえのある豊かな学園生活を送るためにとても重要です。

## 新入園児たちの素直さ、学習力 子どもたちとともに

4月6日は幼稚園の入園式、新しい園児たちは期待と不安でいっぱい、式場内は落ち着きがありません。そんな特別な微笑ましい雰囲気の中、園長は式辞のなかで新入園児たちと見事に会話を成立させました。園長の祝いの言葉に、子どもたちが反応し「ありがとうございます」と言えるようになったのです。園長の話術・保育力も見事、そして園児たちの素直さ、学習力



上：ソーシャルワーカーの“声”プロジェクトメンバー被災地訪問  
下：ソーシャルワーカーの“声”プロジェクトメンバーによる報告会

もたいしたものです。われわれ教職員がどう接するかで子どもたちは大きく変わる。そしてその子どもたちの様子を見て、我々教職員も喜び・やりがいを感じまた成長できます。子どもたちとともに教職員も学んでいるのです。

## おかげさまで、学園創立70周年 「豊かな心の育成」

本年2012年は学園創設70周年、学園を支えていただいている多くの方々に感謝申し上げるとともに、一層の学園発展向上を期して昨秋、学園の経営理念とビジョンを策定、これからも誠実に教育活動に邁進してまいります。ビジョンの第一番目には「豊かな心の育成」を掲げました。人の幸せを願う豊かな心があって初めて確かな知識・技術が活かされ、平和で幸せな社会が構築されます。豊かな心、人格の出発点は志(夢)、笑顔、あいさつ、優しさです。目を輝かせ夢を語り合う学園をともに創り上げてまいりましょう。

# 学園創立70周年記念行事

## 「創立70周年記念式典・祝賀会」開催

5月11日（金）帝国ホテル大阪に700名のご来賓をお招きし創立70周年記念式典ならびに祝賀会（第一部、第二部）が、厳粛かつ盛大に執り行われました。

記念式典では、冒頭江端理事長よりご来賓の皆様へのお礼の挨拶とともに、これまでの70年の歩みと将来ビジョンについて力強いメッセージが発信されました。その後、大阪府松井一郎知事様、日本私立大学協会大沼淳会長様よりお祝いと激励のお言葉を頂きました。これを受け各学校園代表による誓いの言葉が表明され、続いて行われた祝賀会（第一部）では、終始和やかな雰囲気の中で懇親を深めました。夕刻には祝賀会（第二部）が教職員ならびにOBの皆様を対象に400名参加のもと行われ盛会のうちに70周年を祝い合いました。

太平洋戦争勃発間もない1942年（昭和17年）山田藤一氏により創立された本学園は、その後の幾多の困難を乗り越え本年創立70周年の節目を迎えることができました。一重に国や大阪府ならびに地域の皆様からの温かいご支援の賜物であります。また学園を巣立った卒業生やそ

の保護者の皆様、歴代の教職員の皆様の学園を愛する強い想いや時々のご苦勞の結晶であります。こうした本学園の歴史を築き上げてこられた関係各位に、教職員ならびに学生・生徒・園児一同は深く感謝し改めて建学の精神「感恩」の念を心に刻まねばなりません。

一方、昨今の学園を取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、人生の一コマを友と過ごし思い出を綴った学び舎としていつまでも愛され続ける学園を目指すと共に、教育を通じて21世紀の豊かな福祉社会実現に寄与するべく、決意新たに総意を結集して、新たな歴史を積み上げていくことを全員で誓い合いました。



## 全学園有志による人文字

### 人文字作成委員会

本年は学園創立70周年記念の年となります。たくさんの記念行事の一つとして学園に通う



学生、生徒、園児、教職員による一大合作の人文字を作成することが出来ました。

70周年を記念し学園全体で何かを創りだそうという発案のもと、グラウンドに大きな70周年記念シンボルマークを現在学園に通うみんなで作成することにしました。

一度に全員がそろえないため、それぞれの学校園で設定した時間に集まり、人文字をそれぞれのパートに分け一瞬のタイミングで撮影し、その一つ一つのパートを組み合わせ、グラウンドいっぱいのシンボルマークを人文字で表すことに成功しました。

玉手山学園に通う在校生、教職員による人文字です、どうぞご覧ください。

## 三世代表彰

この度、学園創立70周年を迎えるにあたり江端源治理事長より学園愛校心の醸成ということテーマに玉手山学園に入学、卒業していただいた皆様に「玉手山学園ファミリー」という意識を持っていただくという思いから、昨秋にこの「三世代表彰」の企画についてゴーサインが出されました。

本学園も1942年（昭和17年）に山田藤一氏により玉手山高等女学校を設立され70年の歴史がありますが三世代に亘り本学園に入学し卒業していただいたファミリーが何組あるのか、女子校が母体ですので婚姻等による転居で住所が分からない卒業生も多く、まして募集期間も短かったため応募をいただくまで不安でいっぱいでした。

各学校園が発行する同窓会報等に「三世代表彰対象者募集」の記事を掲載して頂いたり、教職員にも心当たりがないか情報を集めたり、行事等があるたびに保護者に「三世代表彰」の案内をしていただいたりしました。

その結果、在学中の大学生から1組、今年度入学された高校生から1組、幼稚園の在園児か

ら2組、合計4組の該当者がおられました。

5月11日に帝国ホテル大阪で執り行われました学園創立70周年記念式典には該当者4組の内、辻文子さん（昭和40年度玉手山高等学校卒、親）江越恵美さん（平成2年度関西女子短期大学附属高等学校卒、子）江越和希さん（平成24年度関西福祉科学大学高等学校入学、孫）のご家族と脇山初美さん（昭和43年度玉手山高等学校卒、親）鶴田亜希さん（昭和61年度関西女子短期大学附属幼稚園卒、子）鶴田桜徠さん（平成24年度関西女子短期大学附属幼稚園在園、孫）の2家族に出席していただき、式典では江端源治理事長より感謝の意を込めた表彰状と副賞が贈られました。



## 名称・愛称 募集

### 寄付募集小委員会

玉手山学園創立70周年記念行事として、学園内の主要な通路・広場・通用門等の愛称として、学園で一緒に生活をしている全ての学生・生徒・園児・教職員にとって、親しみが持て末永く愛されるネーミングを募集いたしましたところ、総数1,741件の応募をいただきました。



募集は、予め定められたエリアにネーミングする「指定エリアの部」11ヶ所と任意の場所をネーミングする「自由提案の部」3ヶ所でおこなわれました。審査については、多くの応募をいただいたことから、学園70周年記念行事実行委員会による入賞者決定にもたいへん苦慮いたしましたが、厳正な審査の結果36名の入賞者と3名の理事長賞を決定いたしました。

表彰は4月25日に優秀賞の学生・生徒・園児とその保護者の方々の表彰式をおこない、理事長賞は5月11日の学園創立70周年記念式典後の学園教職員祝賀会にて表彰式をおこないました。

この「名称・愛称 募集」が、多くの学生・生徒・園児・教職員に理解され、多数の応募をいただいたこの結果に、企画側からしまして、とても嬉しく達成感に満ち溢れています。

今回のイベントを通し、多くの学生・生徒・園児・教職員が、より親しみを感じながらキャンパスライフを送ることができればと願っております。

## 2011K'sコンサート開催

法人本部 仲谷博英

昨年12月23日(金)に「学園創立70周年記念行事」の一環として「2011K'sコンサート」が柏原市民文化会館リビエールホールで行われました。

当日は地元の柏原中学校、堅下北中学校の生徒、計42名をゲストとして招待し、また短期大学保育科2年生28名による和太鼓の演奏もあり盛大に開催することができました。また幼稚園児各種入選作品披露も併せて開催され、計897名の来場者を集めることができました。柏原市の年末には「玉手山学園K'sコンサートあり」の印象が確実に定着しつつあります。

吹奏楽団指導者安田伸一教諭(高等学校)から情熱溢れる指導を受けコンサート演奏を成し



遂げた吹奏楽団元副部長の鷹鳥彩夏さんは「毎日が厳しい練習で辛い事もありましたが、本番では思いっきり楽しんで演奏できました。全部が最高の思い出です。また大勢の方に来場頂き感謝の気持ちで一杯です。」とその胸中を語ってくれました。

今年のK'sコンサートは12月22日(土)同会館で開催の予定です。どうぞご期待下さい。

## 二上山登頂

二上山登山実施委員 岡本 秀美(幼稚園)

青葉が繁れるさわやかな季節の4月29日(日)に、学園創立70周年記念行事の一つである「第2回二上山登山」が行われました。今回は晴天に恵まれ、山登りには少し暑いぐらいの陽気でした。学生、生徒そして教職員と総数86名ものご参加を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。

今回のルートは、ふるさと公園から登り、雄岳、雌岳へそして万葉の森に下りてくるコースです。ふるさと公園で準備体操を終え、目指すは「二上山山頂」!! 黙々と登って、登って、少し休憩、また登って、登って…降り注ぐ木洩れ日のなか、不意に広がる青空を見上げると、あと一歩で頂上。「やっと着いた」と眼下に広

がる緑を満喫しながらほっと一息。頂上では少々アクシデントはありましたが、皆で学園歌を斉唱。そしてお楽しみのランチタイム。山頂でのお弁当は、達成感と空腹でおいしく召し上がっていただけたのではないのでしょうか?

休憩後は万葉の森方向へ下山。途中、奈良の明日香村にある石舞台の大きな石が切り出された石切り場にも立ち寄り、いにしへの奈良に想いをはせ、悠久の時を感じられたひとときも…。最後は膝を笑わせながらも、無事に下山することができ、ゴールでは、スタッフによるクラッカーでの盛大な出迎え! それに順次下山して来る参加者に下山を終えた学生、生徒、教職員によるクラッカー! 「お疲れ様!」と声を掛け合うみんなの笑顔が素敵でした。

参加された皆さん、この登山をいい思い出にしていただけでしたか? 学園歌に歌われるこの二上山! 今までとは違い、「あの山に登ったよ。」とどこか感慨深く眺めてしまうかも知れませんね。

最後になりましたが、この行事に参加して頂いた方々に重ねて御礼申し上げます。スタッフとして至らぬ点は多々あったかと思いますが、無事にこの行事を終えられましたこと、本当にうれしく思います。これからも、学生、生徒、園児、入学して良かったと感じていただける温もりのある学園にするために教職員一丸となって、邁進していく所存であります。



## 「フォトコンテスト」

### フォトコンテスト実行委員会

昨年4月にスタートし、約1年に亘って応募を受け付けていた「フォトコンテスト」の表彰作品が決定しました。このコンテストは、学園創立70周年記念行事の一環として実施され、学園の四季折々の風景等を対象として募集されましたが、第一期から第四期の各期の入選作品から3次に亘る審査を経て表彰対象となる23点の作品（最優秀賞・1点、優秀賞・2点、特選・4点、準特選・12点、審査員特別賞・4点）が決定しました。これらの作品は5月11日に開催された70周年記念式典の会場前に展示され、当日お越しの来賓の方々には歴史の重みと溢れる自然が各所に見られる学園のすばらしさを感じ入ってお

れました。また、最優秀賞・優秀賞を受賞された3名の方は同日の祝賀会（第2部）において表彰され盛んな拍手を受けていました。

今回の表彰対象のうち最優秀賞・優秀賞を受賞されたのは次の方々です。



最優秀賞 玉手山トトロ(森 愛さん)



優秀賞 学園2号館から、大阪夏の陣の古戦場「小松山」を望む  
(新居 周子さん)



優秀賞 思い出(榎本 清美さん)

## 『70周年記念 学園all同窓会』(仮称)開催のお知らせ

平成24年9月2日(日)

### イベント

音楽イベント

出演：一青窈（ひととよう）

主催：学校法人玉手山学園 各同窓会

場所：記念講堂

### 学校別懇親会

主催：各同窓会

場所：学園食堂および総合体育館等

学園創立70周年記念行事の一環として、各所属の全同窓生の皆さんによる「学園all同窓会」(仮称)を左記の内容にて開催します。大勢の同窓生の皆さんが久しぶりに集まって、相互交流を通じて母校の伝統を実感していただくことを目的としています。

同窓生の皆さんに6月下旬(予定)に案内予定です。多くの同窓生が集まることを期待していますので、教職員の皆様のご協力・ご参加をお願いいたします。

詳細は決定次第、随時、同窓生向けイベント担当者を通じてご連絡いたします。

# 学園 トピックス

## 東日本大震災復興支援 プロジェクトについて

社会福祉学部社会福祉学科  
遠藤 洋二



全国の福祉専門職を育成する大学で構成される「福祉系大学経営者協議会」は、被災地で支援活動を行う福祉専門職（ソーシャルワーカー）にインタビューし、その生の声を記録する「ソーシャルワーカーの“声”プロジェクト」を立ち上げ、本学は企画、運営の中核を担っています。

本学においても、本年3月12日～3月17日、社会福祉学部の学生8名と教員3名が宮城県に入り、激甚災害地域の視察・被災者や支援者との懇談、ソーシャルワーカーへのインタビューを行い、「圧倒的無力感」の中、私たちに何が出来るかを真剣に考え、議論を重ねてきました。

当初は感傷的であった学生が、未だ手つかずにある瓦礫や何も残されていない更地を歩き、被災地の現実に向き合うとともに、ソーシャルワーカーの言葉に耳を傾ける中で、福祉のプロとして出来ることはたくさんあることにも気づき多くの学びを得てきました。今後もこのプロジェクトは継続し、さらには、ソーシャルワーカーの声を発信する「学生“語り部”プロジェクト」も始まります。

皆様にもご報告させていただく機会があるかと思いますが、その際には、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## 「Fukkaの食育 ～野菜をたべよう」 料理教室を開催しました



福祉栄養学科では、管理栄養士課程で学ぶ学生たちがさまざまな食育活動に取り組んでいます。本年2月9日には、他学科の学生を対象にした料理教室を実施しました。今年のテーマは“春のパーティーメニュー”で、牛乳パックを型に使ったカラフルな押し寿司、洋風白和え、いちご大福などを作りました。江端学長もエプロン姿で参加され、学生と一緒に押し寿司に挑戦されました。また福祉栄養学科学生が食育リーダーとして調理指導や進行役を務めました。参加者からは、「苦手な野菜を食べることができた」「野菜といえばサラダしか思いつかなかったが、久しぶりに色々な野菜を食べることができた」「見た目も食欲を引き出すのに重要だと分かった」という感想が聞かれ、将来の管理栄養士をめざす学生にも参加者にも喜びの笑顔があふれたひとときとなりました。

食育は一方通行ではなく、このような仲間との交流を通して互いに学びあうことが福祉栄養学科の学生が取り組む「Fukkaの食育」と考えています。

## 近鉄大阪線河内国分駅 に副駅名「関西福祉科学 大学前」の採用決定

経営企画室



近畿日本鉄道株式会社様にご協力いただき、2011年（平成23年）12月26日（月）より近鉄大阪線河

内国分駅の副駅名が「関西福祉科学大学前」となりました。

近鉄線で大学名が副駅名として採用されるのは、本学が7番目の事例となります。

河内国分駅は、本学園の学生・生徒・教職員の通学・通勤の最寄り駅として、長年利用され、本学園にとっては、とても親しみのある駅であり、学園創立70周年を迎えるにあたり、大学名が副駅名として採用されたことは大変嬉しい出来事です。

また、河内国分駅を利用される地域の皆様にも、関西福祉科学大学並びに玉手山学園を知っていただく一助となることと思います。

地域の皆様並びに本学園の学生・生徒・教職員に、河内国分（関西福祉科学大学前）駅が、今後ますます親しみをもって利用されることを願います。

## 「夢の途中」

高等学校なぎなた部顧問 岩本道雄

「ピーー！」主審の笛の音が静かな体育館の中に響いた。同時に副審4人と合わせて5人の審判の旗が揚がる。観客席からの拍手が聞こえる中、3対2で日山・明石ペアの勝利。接戦ではあったが演技競技での決勝進出が決まった。

2年生一人、経験者は居るものの、1年生4人。関西福祉科学大学高等学校なぎなた部の現状である。部員不足が原因で、昨年の近畿大会は残念ながら出場する事が出来ず、連続出場は17年で一旦切れてしまった。その悔しさをバネに、1年生部員と共に歩んだこの一年。団体の関西福祉といわれた時代を復活させる目標は達成できなかったが、確かな感触を掴んだに違いない。決勝戦では残念ながら、同じ大阪代表の汎愛高校のペアに破れ涙を流したが、まだまだ、「夢の途中」。先輩達の実績（インターハイ団体2年連続5位、近畿大会団体優勝1回・準優勝2回・3位2回）に「近畿大会演技の部準優勝」の新たな実績を付け加え、「報われない努力はない」夢をあきらめず努力を積み重ねれば、夢は叶う。身を以て経験した部員が「夢」へ向け、皆さんの応援に感謝しながら新たなスタートを切った。



## 祝 平成23年度 文部科学 大臣優秀教員表彰受賞

園長 川人 公一



本年1月30日(月)東京メルパルクホールに於いて標記表彰式の式典が挙行されました。全国、国公私立の幼少中高の被表彰者である先生方、783名が参集、内幼稚園の部全国18名、その中において大阪府より2名の1人として本園主任大西英子先生が受賞されました。

先生は常に率先垂範、範となり努力され、教育実践にまた研究活動に於いて顕著な成果を上げてこられました。その功績により大阪府から推薦され、今日の栄誉に輝かれました。この貴重なる授賞は先生ご自身のみならず本園にとっても名誉なことであり、大きな喜びとするところです。今後も本園発展のため尽力いただき、先生の益々のご活躍をお祈りいたします。

## 平成23年度学術研究褒賞 について (大学・短大)

大学事務局総務部



本学は、専任教員による優れた学術研究及び社会的貢献に対して褒賞することを目的に「褒賞規程」を整備し、制度化しています。

今回、申請対象期間を平成19年10月1日～平成23年3月31日として申請を受け、審査委員会において慎重に審議しました結果、大学教員2名の授賞(短大授賞者なし)

が決定しました。

表彰式は平成23年11月30日(水)に開催し、江端学長より表彰され副賞が授与されました。

### 《表彰された専任教員》(敬称略)

- ・八田 武志  
(健康福祉学部健康科学科 教授)  
「きき手と脳機能に関する研究」
- ・北村 肇  
(健康福祉学部福祉栄養学科 教授)  
「補体学研究及び補体学テキスト執筆」

### 《受賞者・八田武志教授より》

選考対象にさせていただいたのは『左対右 きき手大研究』(化学同人選書)です。この本は前任校を退職する際の記念にと、それまで集積した左ききに関係する人間や動物の研究を一般向けにまとめたものです。新聞の読書欄を始めとしていくつかのメディアに書評が掲載され、それをきっかけにしてテレビでの出演(AKB48との共演など)や、社内報への寄稿依頼など、これまでにない反響があり、おかげで様々な経験ができました。所属先と記されたことで関西福祉科学大学にいささかでも貢献できたのであれば嬉しいことです。この度の学術研究褒賞、まことに有り難うございました。

## 事業場内メンタルヘルス 推進担当者養成講座 産業保健スタッフコース



本年2月3日(金)～4日(土)の2日間にわたり、キャンパスポート大阪にて本学EAP研究所と医療法人あけぼの会共催の「事業場内メンタルヘルス推進担当者養成講座 産業保健スタッフコース」が「認知行動療法セミナー」と題して開催されました。

本講座は精神科医、労働法等を専門とする法律家、臨床心理士など産業界でメンタルヘルスに携わる専

門家が講師となり、メンタルヘルスケアの基礎知識から事例検討まで幅広く体系的に学んでゆき、企業においてメンタルヘルス推進の中心的役割を果たせる人材を養成することを目的として平成21年から開催されています。本講座は基礎・アドバンスの2コースからなっていますが、新たに、より専門的な知識とスキルの習得を目的とした産業保健スタッフコースを開催する運びとなりました。当日は企業の産業保健スタッフや臨床心理士など延べ31名が全国から参加し、認知行動療法概論、基本スキル、復職支援に活かす認知行動療法、相談対応に活かす認知行動療法の内容で講義やグループワークを行った。アンケートでは「認知行動療法についてもっと学びたくなった」「グループワークを通して実践に役立つ内容だった」など感想が寄せられ、参加者の専門的なスキル習得への意欲の高さがうかがえました。

## 個人情報保護研修会開催



学園と大・短の個人情報保護委員会が共催し、2011年(平成23年)12月7日(水)教職員対象の個人情報保護研修会が開催されました。個人の権利や利益を保護するために7年前 個人情報保護法が施行され、様々な取組みが行われましたが今一度それらを振り返り、保護法の正しい理解と業務遂行上の留意事項を教職員それぞれが再認識し共通認識することを目的に、委員会ではこの研修会の開催準備を進めてきました。当日は依法律事務所の井川弁護士をお招きし、個人情報管理のあり方、個人情報利用上のルール及び個人情報漏洩によるリスク等を、法の定めるものと常識的な運用範囲について具体的にかつ分かりやすい説明をいただきました。講義の後、講師と参加者が活発に意見交換するなど終始熱心な研修風景が印象的でした。

また、この研修会が業務上発生する日頃の悩みや課題の解決に大きく役立つ内容であったと、参加者より満足のメッセージを沢山いただいております。(参加者 教職員113名)

## 第2回初任者研修 「ビジネス文書研修」開講 法人本部総務部



昨年末、第2回の初任者向け研修として「ビジネス文書研修」を開講しました。この研修は、若手職員に対外文書や議事録等の作成上のルールやマナーの基本を学んでいただくことを目的に開講したもので、今回も短大医療秘書学科長の堀初子教授にご指導いただきました。当日受講の25名は、それぞれに日頃作成する文書の振り返りと反省の良き機会として、また自己の文書力向上への良き刺激剤として終始熱心に受講されていました。この研修で得た知識を今後の業務に活かし、更にレベルアップにつなげていただくよう期待しています。

受講者からは「今までの方法が間違っていたことに気付いた」「知らなかった作成上の決まりごとを知ることができた」「即実践し、改善していきたい」等の感想を頂きました。

本年度も執務力向上研修を企画していきますので皆さんの積極的な受講をお願い致します。

## 日本赤十字社社長感謝状受彰 保育科 教授 高木 信良



本年3月11日(日) 大阪赤十字

会館において「平成23年度赤十字ボランティアのつどい」が開催され、有功章・感謝状の贈呈が行われ、日本赤十字社社長感謝状をいただくこととなり、大変光栄に思っております。私が頂戴いたしました感謝状につきましては、1977年(昭和52年)2月に日本赤十字社救急法指導員の資格を取得すると同時に安全事業指導奉仕団(旧 救急・水安指導奉仕団)「特殊奉仕団」の一員としてボランティア活動をスタートして35年間、本学の救急処置の授業、赤十字大阪府支部での講習、その他外部からの講習依頼に応え、本学はもとより周辺の方々のご理解やご協力を得ながら現在もお継続させていただいています。また、奉仕団運営の要職を歴任させていただき、1994年度(平成6年度)から、当団の顧問として奉仕団運営にも協力させていただいています。今後も出来る限り日本赤十字社救急法指導員としてボランティア活動を継続していきたいと思っています。

## 永年勤続表彰

法人本部総務部



平成23年度の永年勤続表彰式が去る1月13日に、学園本館10階の会議室でおこなわれました。当日は理事長より一人ひとりに感謝状と祝金が渡され、感謝とねぎらいの言葉がありました。表彰された方は次のとおりです。(敬称略)

### 勤続25周年表彰

溝端徳子(高校)  
小森泉(高校)  
玉井宏昌(高校)  
中村斉子(幼稚園)  
村井恵(幼稚園)

### 勤続15周年表彰

小林秀規(大学)  
森愛(大学)  
小林美香(大学)  
森下千江(高校)

西村匡代(専門)  
花房武司(専門)

## 進路状況

### ● 大学・大学院

大学の2011年度(平成23年度)卒業生の進路状況について報告いたします。

2011年度(平成23年度)の日本の経済は、東日本大震災の影響と政治の混乱もあり先行きが尚不透明で、2010年度(平成22年度)よりも多少の明るさが見えてはいますが、就職については依然厳しい環境下でした。

このような状況下で本学は学科の特性を活かした福祉関連や教育関連を中心に、教職員の協力も得て対応したことにより、前年同様の高い就職率を上げることができました。

平成23年度の卒業生は558名、うち就職希望者が463名、就職したものが449名でした。

大学全体の就職内定率(就職希望者に対する就職決定者の割合)は97%となりました。

各科の就職内定率は、社会福祉学科では、就職希望者240名に対し233名が就職し97%、臨床心理学科では、就職希望者66名に対し60名が就職し91%、健康科学科は就職希望者72名中71名が就職し99%、福祉栄養学科では、就職希望者85名中85名が就職し100%となりました。

進学者は25名で、うち4名が関西福祉科学大学大学院へ進んでいます。

大学院につきましては、21名中15名が修了後の進路を確定しました。

次に国家試験の合格状況ですが、社会福祉士114名、精神保健福祉士24名が合格者となりました。

社会福祉士の合格者数につきましては、全国234大学中、第5位と前年の6位よりもランクアップしました。

管理栄養士の合格者数は67名、合格率77.9%でした。

卒業生1期から6期までの中で、合格者数、合格率とも過去最高の結果となりました。

また教員採用試験(公立・養護教諭)では、9名が合格いたしました。

平成24年度も教育後援会の協力

のもと、本年以上の合格者を目指していきます。

### 平成23年度 進路状況(大学)

(平成24年4月26日現在)

	全体	社会福祉 学科	臨床心理 学科	健康科 学科	福祉栄養 学科
卒業生	558	265	123	80	90
就職希望者	463	240	66	72	85
就職決定者	449	233	60	71	85
就職決定率	97.0%	97.1%	90.9%	98.6%	100.0%
進学希望者	27	2	20	3	2
進学決定者	25	2	18	3	2
進学率	92.6%	100.0%	90.0%	100.0%	100.0%
その他	68	23	37	5	3

### ● 短期大学

短期大学の平成23年度卒業生の進路状況について報告いたします。

平成23年度の卒業生は267名、うち就職希望者が246名、就職者が236名でした。

短大全体の就職内定率（就職希望者に対する就職決定者の割合）は96%となりました。

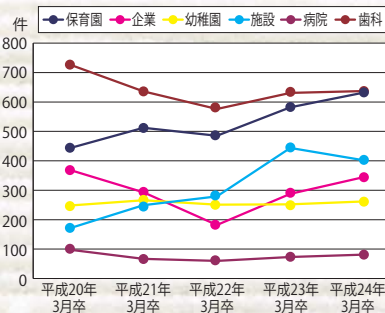
各科・コースの就職内定率は、保育科では就職希望者72名に対し72名が就職し100%、歯科衛生学科では就職希望者90名に対し87名が就職し97%、養護保健コースでは就職希望者36名に対し29名が就職し81%、医療秘書コースでは就職希望者48名に対し48名が就職し100%となりました。

進学については4名が大学や専門学校へ進んでおります。

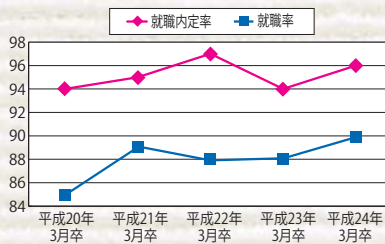
また、本学への求人についてですが、全体では総数2,359件と卒業生267名に対して8.8倍の多くの件数をいただくことができました。

今年度も引き続き、教員と職員の協力関係を築き、一人ひとりの学生へ専門性を活かした就職支援を行い、長引く経済不況を乗り越えて、就職率の向上に努めてまいります。

### 求人票受付件数(短大)



### 就職内定率・就職率(短大)



### ● 専門学校

平成23年度専門学校の就職内定率は98%。詳細は別表の通りです。診療情報管理学科の進学は短大専攻科。介護福祉学科の進学は福科大編入。国家試験は、理学・作業療法学科共に1名の不合格者を出すものの、昨年不合格者2名は今期合格しました。

年度別求人票受付件数表（複数受付を含む）を参考まで示しました。

### 平成23年度 進路状況(専門学校)

学科名	性別	卒業	進学	特養	病院	老健	診療所	児童	身障	官公	未定	他計	内定率	
診療情報管理学科	男	2									1	1	2	90%
	女	8	3		4		1						8	
介護福祉学科	男	11	1	6		1				2		1	11	95%
	女	9	2	5		2							9	
理学療法学科	男	17			17								17	100%
	女	13			13								13	
作業療法学科	男	4			3	1							4	100%
	女	20			18	1						2	20	
総計		84	6	11	55	5	1	1		2	1	2	84	98%

国試合格率	本校	全国平均
理学療法学科	97%	82%
作業療法学科	96%	78%

### 年度別求人票受付数

